

札幌市立中島中学校の取組【環境：地域・外部人材活用】

1 研究のねらい

総合的な学習の時間で「環境を考える～地域との交流を活かした活動」に取り組んで 10 年目を迎えた。過去の活動を継続しつつ、さらに活発な交流ができないかと検討した結果、今年度は生徒の活動と外部人材の活用を意図的に増やすことで、生徒が学びの深めることをねらいとした。生徒が、札幌市の財産である素晴らしい自然環境を備える中島公園を校区にもつことの喜びを感じ、その環境を維持していく努力を自発的に考えていくことを目指したい。

2 取組内容

(1) 環境問題や公園の役割について学ぶ

① 中島公園管理事務所による講演会（全学年）

6 月 22 日、全校生徒を対象に中島公園管理事務所職員による講演会を行った。例年は 1・3 年生を対象としているが、2 年生もスノーキャンドル作りに参加させていただいていることから、全学年で講演会を行った。全校で中島公園活動に取り組んでいることを確認することができ、有意義な講演会となった。演題は「身近な環境のために出来ること」で、札幌市で活動している人たちの紹介、中島公園の環境問題、中島中の先輩方の取組の 3 点を柱に講演していただいた。特に、市内の公園環境を維持するために多くの人々が関わっていることや、中島公園で排出されたごみや公衆トイレの汚れなどが印象に残り、身近な環境の維持に対し「自分たちが出来ることは何だろう」と考えるよい機会となった。



② 中島公園清掃活動（1・3 年生）および彫刻清掃（1 年生）

7 月 22 日に 1・3 年生で中島公園の清掃活動を行った。炎天下の午後だったが、生徒は生き生きとごみ拾いをしていった。事前に講演会で聞いていたとおり、毎日清掃していてもごみが出る現実を目の当たりにすることとなった。さらに今年は 3 年生が 8 月 26 日に公園内の川清掃も行った。また、今年度は札幌彫刻美術館友の会の御協力のもと、10 月 27 日に 1 年生が中島公園内の彫刻清掃を行った。活動前の 9 月、友の会の講師から「彫刻とは何か」をテーマに彫刻にまつわる講話をしていただいたことも、当日の清掃活動に生かすことができた。



(2) 地域のイベントへの協力

① ワックスボール制作（3 年生）とスノーキャンドル制作（1・2 年生）

10 月 3 日に 3 年生が中島公園内で「ワックスボール制作」を行った。これは毎年 2

月に行われる「ゆきあかり in 中島公園」で点灯されるスノーキャンドルの一つであり、管理事務所職員からの指導のもと活動に取り組んだ。水風船をふくらませ、熱で溶かした蠟に何度も繰り返し浸して層を作り、蠟のボールを作る活動である。



1月30日と31日には、1・2年生がスノーキャンドル制作を行った。寒い野外で、バケツいっぱい冷たい雪を入れ、さらに水で固める作業であるが、生徒は楽しく作業していた。

②「ゆきあかり」への協力を自分たちの手で（1・2年生）

これまではスノーキャンドル制作などの活動だけであったが、今年度初の試みとして、実際に「ゆきあかり in 中島公園」の会場作りを手伝わせていただくことになり、2月10日の点灯式直前に、自分たちが作ったスノーキャンドルをイベント会場に設置する活動を1・2年生で行った。また、雪像作りには、男子バドミントン部が参加した。管理事務所の方々の指示を仰ぎながら、イベントに参加することで地域に貢献しているという自覚が生まれている。



尚、毎年の中島公園で写生会を行っており、出来上がった作品を秋に「青空画廊」として公園内に掲示させていただいている。どれも継続していきたい活動である。

3 成果と課題

(1) 成果

活動を重ねるたびに中島公園のよさが分かり、校区にこの恵まれた環境があることの幸せを感じるようになってきている。さらにその自然環境を維持するために、自分たちがどのように行動すべきかについて考えることができるようになってきている。また、外部の講師による指導と発信されるメッセージから多くを学び、謙虚に感謝の気持ちを表している。3年生は中島公園活動について、3年間に渡って関わった経験をグループごとにまとめ、掲示物を作成した。今年度は1・2年生が実際にイベント会場設営に参加させていただき、地域への貢献度が一層高まった。

(2) 課題

中島公園事務所の御尽力により、この活動が成り立っている。特に毎年初回の講演会は、テーマの決定も委ねているので、今年度のように全学年が対象の講演の場合、前年度と違う内容になると調整に時間がかかった。彫刻美術館友の会においても会員の皆さんの思いと本校のねらいが一致するよう、よく検討していくことが必要である。今までの取組を継続しつつ、生徒にとって有意義な活動ができるように、よりよい企画を考えていかなければならない。さらに、より生徒が自発的に活動を考えるようにすることが今後の課題である。